

## Floppy's Phonics Stage 4 'The Knight Who Was Afraid.'

p.1

「この劇は私が作りました」ウィルマが言いました。

「どうぞお楽しみください」

p.2

お父さんがステージに登場しました。

「私は騎士だ」お父さんが言いました。

「名はラグバグ卿という」

p.3

ウィルフがやって来ました。

「ぼくはラグバグ卿の従者だ」ウィルフが言いました。

「名前はジェイク」

p.4

お母さんとビフが続いて登場しました。

「私はラグバグ卿夫人」お母さんが言いました。

「名はメイビス」

p.5

「私はメイドよ」ビフが言いました。

「名前はケイト」

「ラグバグ卿夫人は編み物が趣味なの」

p.6

巨人がお城の門のところにやって来ました。

ジェイクは怖くてビクビクしています。

p.7

ケイトは隠れました。

「騎士はどこだ。我が輩と闘うのじゃ」巨人が大声で言いました。

「叩きのめしてやる」

p.8

ケイトはラグバグ卿のところへ走って行きました。

「巨人がやってまいります」ケイトは叫びました。

「ご主人様と闘うと言っています」

p.9

ラグバグ卿の顔が真っ青になりました。

膝がガクガクふるえています。

「こわいよ～。助けて」

「これを着て」

p.10

巨人がやって来ました。

「騎士と闘うぞ」と大声を上げました。

P.11

「いいえ、私はレディです」ラグバグ卿は言いました。

「ラグバグ卿は今日はいらっしゃいません」

「彼はジェーンです」

p.12

「たわごとを言いおって！ 貴様こそ騎士じゃ！」巨人が叫びました。「貴様と闘うぞ」

p.13

ジェイクはよく人に慣れたネズミを飼っていました。

そしてネズミを放ちました。

「巨人をやっつけろ」

p.14

「我が輩はネズミが大嫌いなのじゃ」巨人は泣き叫びました。

そしてラグバグ卿夫人の編み物の中に逃げ込みました。

「今日の勝利は私の編み物のおかげね」

p.15

「私は何も恐れはしなかった」とラグバグ卿が言いました。

「うそばかり」

p.16

「これでおしまいです」ウィルマが言いました。

「皆さんに楽しんでいただけたらうれしいです」

「これにて終了」